

ば、新型コロナウイルスは体内の臓器に入り込み、そこに損害を与える可能性がある。ワクチンのスパイクタンパク質は体内の細胞に深く入り込み、細胞をスパイクタンパク質を生産する工場に変える。これにより、体の免疫系はこれらのスパイクタンパク質を異物として認識し、それを持つ細胞を攻撃することで過剰な自己免疫反応を引き起こされる。この自己免疫反応は臓器を破壊し、特に心筋炎の高発生率を説明している。このスパイクタンパク質が体内にどれだけの期間残るかは不明であり、これは医療従事者にとって大きな懸念事項となっている。

ドイツの病理学者、アルネ・ブルクハルト博士によって行われた15件の解剖結果は、ワクチンのスパイクタンパク質が心筋に炎症反応を引き起こし、心筋梗塞、不整脈、心筋炎が突然死の原因となったことを確認している。解剖された15人のうち、14人は心臓に問題があり、彼らの心筋には大量のTリンパ球が存在していた。Tリンパ球は、免疫系において中心的な役割を果たす白血球の一種で、ウイルス感染細胞やがん細胞の排除、免疫の調整に関与する。解剖結果によると、14人のTリンパ球は心臓の血管の近くに集まっており、血管内皮細胞が死んでいたことが確認された。この研究は、健康な人々が突然死した原因がワクチンであるという証拠を提供している。

ブルクハルト博士の解剖研究が行われる以前、医療界はワクチンが突然死の原因であるという仮説に頼っていたが、この研究により、ワクチンが突然の心臓死を引き起こしていることが証明された。しかし、ワクチンを推進する医療当局は、この証拠を認めることを拒んでいる。

ワクチン障害の治療例

35歳の女性 彼女は新型コロナウイルスからの回復から約6カ月後、重度の左側ベル麻痺（顔面左側の麻痺）と頭痛を訴えて再び私の元に来た。これらの症状は、彼女が既に新型コロナウイルスに罹り、回復したと報告していたにもかかわらず、雇用主に強制されてワクチンを接種した2週間後に現れた。南アフリカでは、政府がワクチン接種を義務化していなかったにもかかわらず、多くの大企業が従業員にワクチン接種を強制し、接種を拒否すれば解雇のリスクがあるとした。多くの患者は職を失わないために、望まない形でワクチンを接種することを余儀なくされた。私は、スパイクタンパク質によって引き起こされた神経の炎症を鎮めるため、イベルメクチンと選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）の一つである抗うつ剤フルオキセチンを彼女に処方した。フルオキセチンは抗炎症作用もあり、血液脳関門を通過できる特性があるため使用した。彼女は6カ月の治療を経て90%の回復を遂げた。時折痛みが残るが、顔の筋肉の機能はほぼ完全に回復した。しかし、病気で仕事を休んだことを理由に解雇されてしまった。